

平成 24 年 度

ふれあい地域懇談会報告書

〈腰越地域〉

1	日 時	平成24年7月19日(木) 午後7時~9時
2	場 所	腰越行政センター 第4集会室
3	出 席 者	自治・町内会代表 19名 腰越地区社会福祉協議会1名、西鎌倉地区社会福祉協議会2名、鎌倉市老人クラブ連合会腰越地区2名、民生委員・児童委員協議会第10地区1名、保護司1名、西鎌倉商店会1名、小中学校PTA3名、小学校スポーツ振興会2名 合計32名
4	市側出席者	松尾市長、相川経営企画部長、嶋村防災安全部長、石井環境部長、原田腰越支所長
5	テ ー マ	1 従来の懸案事項の進捗状況について (老人センター建設計画、134号鎌高前交差点改修工事、広町関連、防災関連(防災ラジオの試行結果等)) 2 ごみ有料化及び焼却施設の現状について 3 津波対策、防災無線(ラジオ)等の防災対策について

平成24年10月 経営企画部 秘書広報課

— 第2部 過去2年間の懸案事項の報告—

<松尾市長>

1点目、『134号線の歩道が危険なので改良してほしい』という話だが、ここは国道なので、県の藤沢土木事務所に、今後そうした取り組みをしていただくよう話をしている。

2点目、『西鎌倉の地区社協での調理室で出るごみについて』は、雨天の場合やプラゴミが多く出た場合にはこの支所で処理するという事で、合意をさせていただいた。この件は、西鎌倉地区社会福祉協議会の皆様方にもご了解をいただいている。

3点目、『腰越地域の老人センターの建設計画について』は、昨年この場でも大変多くの意見をいただいた。現在は、寄付により取得をしたセブンイレブン鎌倉津西店近くの土地で実現を目指すという方針を立てており、実施計画事業の中で、平成25年に実施設計、平成26年・27年に建設工事と位置づけをしたところである。

この土地は、延床600㎡までという規模の規制があるので、老人センター単体での整備を目指していきたい。また、接道は現道のまま整備していく方向で考えており、老朽化している橋は、今後の調査の結果によって架け替えになる可能性があると考えている。

4点目、『134号線鎌倉高校前の道路整備について』だが、この道路の拡幅は、行合橋から小動岬までの134号線の擁壁防災工事と併せて、鎌倉高校駅前交差点改良工事として実施をしたいということで、この平成24年3月に地元の皆様方に、県が主体で説明会を実施したところである。

平成24年度は、警察協議及び詳細設計等を行う予定であり、早ければ一部工事に着手する予定だと聞いている。なお、完成時期については、県の方からは、全体で約30億円かかる工事であるため、現時点では未定であるという回答を受けている。

5点目、『西鎌倉駅のバリアフリー化の様々な問題について』は、モノレールの西鎌倉駅が新しくなったことによる課題として昨年出された。

その中で特に、新しく設置された横断歩道の位置だが、これは西鎌倉駅整備の際に、周辺地域自治町内会や神奈川県警と協議を行ってきた中で、駅周辺は交差点やバス停留所があるために、現在の位置にしか設置できなかったという経緯がある。使いにくいという声もあるが、ご理解をいただきたい。

また、今恰好悪い形で分断されている横断歩道橋だが、これも神奈川県藤沢土木事務

所での工事になり、今年度の予算で駅に向かって降りられるよう復旧する予定であると聞いている。ただし、形状については現時点では未定だと聞いている。

6点目、『広町の公園整備の状況について』は、平成17年に基本設計をして都市計画事業認可を取得しており、現在、用地取得率は86.7%というところまで来ている。

そして、平成24年6月に設計した実施設計の内容を前提として、管理事務所やトイレ、園路、水田、畑等の詳細な配置、形状、構造などについて、市民ボランティア団体の皆様方と、そして保全活動結果や、また市民意見の聴取等を十分に行い、技術的・経済的な見地から検討したうえで、平成25年と26年の2か年で整備工事を行い、平成27年度の開園を目指して取り組みを進めていきたい。

この広町の実施設計は、「広報かまくら」7月1日号の1面に掲載しているので、興味のある方は、市のホームページや市役所行政コーナー、図書館でも閲覧できるので、お声掛けをいただきたい。

<新鎌倉山自治会 小野会長>

西鎌倉駅周辺は、歩行者のマナーもあるにせよ、とても事故が多くて問題である。歩道橋はどうなるのかと心配する声が多いので、それについてははっきりとお答えいただきたい。

<松尾市長>

歩道橋については、どのような形になるかという設計を神奈川県の方で今やっているが、まだ詳細なところは示されていない。

しかし、今年度工事を発注し、来年度にかけての工事になるということを知っており、今分断されている部分を、駅のほうに向かって降りられるようにするというので、県の方では考えているということである。

<新鎌倉山自治会 小野会長>

前はそのまま駅に通じてとても便利だったが、今何うと、降りる所が逆の駅の方になるということか。それと、老朽化している点についてはどうなのか。新しくするのか、あるいは補強するだけなのか。

<松尾市長>

今の段階では、特に老朽化に伴う補強等は検討されていないので、現状のまま、あと下に降りていく階段を付けるということを知っている。

<西鎌倉地区社会福祉協議会 齊藤会長>

今の駅前の横断歩道は、そんなに不便ではない。バス停の近くでは車が見にくいから、かえって危ないなという気がする。足の悪い方やお年寄りの方は大変だと思うが、歩道橋

があるわけだから、今ので慣れれば、非常にいいのではないかと思っている。

<松尾市長>

やはりバリアフリー化をする際には、今までの使い易かった部分が使い難くなるという点が沢山出るという計画であったため、そこは非常に苦慮した部分である。

今現在も使いにくいという意見もあるが、計画の時になるべく地域の方々に説明に入り、不都合があれば意見をいただきたいという中で進めてきた部分もある。だからいいという訳ではないが、いろいろな意見をいただいた中で、あのような形で今落ち着いている。

今後、変えていかなければいけない部分があればもちろん変えていくが、そうした中で理解を賜ればと思っている。

<腰越地区社会福祉協議会 小川会長>

老人福祉センターの件だが、今日の話だとまだ漠然としている。25年度実施設計、26、27年度の建設工事を位置付けたということだが、もうちょっと明確に、本当に我々が見えるような話にならないのか。

この件については長いこと話しをしてきて、2、3年前にはすぐにでもできるような話から、また方向転換してこうなった。でも、ここで説明されている状況というのはまだ玉虫色なので、例えばいつ頃には開所するというような、具体的に踏み込んだ話を伺いたい。

<相川経営企画部長>

25年度で設計をしていくということで、具体的には寄付をいただいた用地が、裏に山も背負っていて、前に川もあるというようなことなので、どういう形で造っていくかというのを、25年度に考えていくということでの設計になる。

それから、26年度と27年度で建設工事をして、28年度には開設をしたいというのが、今私共で考えている計画である。具体的な中身については、これから設計をしていくが、いろいろな制限がかかっているのので、それらを検討してクリアしていく中で、皆様方にお示しできるような案ができれば、逐次報告をさせていただく。

<腰越地区社会福祉協議会 小川会長>

いろいろ事情があるということはわかるが、市内5地区の中でも腰越だけがきちんとしたものがない。こゆるぎ荘の規模ではこの地域の人口、あるいは高齢化の様子からいってとても持ちこたえられないということは、もう周知の事実だと思う。

だから、ちょっとこれでは時間がかかり過ぎているという気がするが、是非、実現をしていただきたい。市長も前々回の時には「万難を排して」というようなことを言われたが、これでは万難に負けているのではないかという気もするので、時期的には問題はあるとしても、必ずやいい施設ができることを期待する。

＜鎌倉市老人クラブ連合会腰越地区 佐々木氏＞

老人センターについては、高齢者の皆様方が非常に大きな期待をしているので、遅れれば遅れるほど、使えずにこの世を去っていく人が増えてしまう。だから、高齢者の立場から、是非、一日も早く喜ばせてあげていただきたいと、心から願います。

＜鎌倉市老人クラブ連合会腰越地区 内田地区長＞

昨年の話だと、だいたい24年計画で、27年あたりに完成する予定だと聞いたが、もうこれは10年ぐらいできます、できますと言いつついながら、まるっきり何もしていない。具体的な話がなくてただずるずるして、時間が経つとまた最後にはお金がないから駄目ですでは、まるで老人の皆さんを騙しているようだ。

他の地域は4か所持っていて、腰越地域だけがセンターを持っていないから早くやってほしい。この腰越地域は、鎌倉で一番年寄りの多い地域だから、こゆるぎ荘では小さすぎる。だんだんと年寄りが増えてきているから、もう少し早く皆さんに努力をしてもらいたい。

＜鎌倉白山坂自治会 粕淵氏＞

普通民間だと、このような建設計画を立てて、実施して完成するのに1年、ないし長くても2年とはかからないのだが、なぜ3年もかかるのか。民間なら普通は1年でできる。

＜松尾市長＞

スピード感がないという指摘は、これまでのすべての皆様方に共通する点だと思うが、行政が施設をつくる際には、入札など行政特有の手続きで進めていくので、決していたずらに時間をかけているという訳ではない。民間企業に比べると確かにスピード感がないと思うが、その中で、できる限り早く進めていけるように取り組んでいきたいと思っている。

＜鎌倉白山坂自治会 粕淵氏＞

西鎌倉駅の件だが、今、バイクと自転車の置き場が非常に狭くて溢れていて、通行に支障を来しているし、停める方も困っておられると思う。その防止策として、周辺のところで例えば設置場所を仮に借用するとか、市の方でどのように考えているのか聞かせてほしい。

＜松尾市長＞

工事の際にも、かなりご迷惑をおかけしていた経過もあるが、一か所、駅からスズキヤさんを越えて左側のところに、置けるスペースを設置させていただいた。

今現在、周辺の空地や歩道の広い部分で、置けるスペースがないかという検討もしているが、なかなかここだという所が見つからない。今後も引き続きの課題だと捉えているので、設置できる適地が見つければ整備を進めていきたい。

<西鎌倉地区社会福祉協議会 齊藤会長>

あまりいい場所はないかなとは思いますが、あそこのスペースで立体化という形はできないものか。

<松尾市長>

そうしたことも工夫をして、検討をしていきたい。

<新鎌倉山自治会 小野会長>

広町の森についてだが、新鎌倉山自治会と広町の森の境の法面については、どのような整備計画になっているのか。

実施計画を見ても、入口の計画というのはあるが、自治会と法面のところは何もない。あそこは景観上のこともあり、どうなるのかと皆心配している。植樹や崖崩れ防止など、計画として市の方できちんと管理していただけるのかという点についてお聞きしたい。

<奈須秘書広報課長>

今日は資料を用意しておらず、担当部長も同席させなかったため、今の件については持ち帰らせていただき、あらためて回答させていただきたい。回答は原田支所長にも渡しておき、他の方から質問を受けた時にも答えられるようにしておくようにする。

《後日対応 — 公園課》

平成24年8月6日に、公園課が新鎌倉山自治会小野会長他2名に対し、現地立ち合いのもと以下の説明を行い、ご了承をいただいた。

- ・ 広町緑地と新鎌倉山住宅地との境の斜面については、現況を活かすこととし、植樹や法面保護等の整備は計画していない。
- ・ 樹林管理については、越境して家屋や通行上の支障が確認された場合に、枝払い等を適宜行う。
- ・ 緑地内の樹林は、見通しや日照、落葉等の理由で伐採することはない。

<浜上町内会 野村会長>

老人センターは、25年設計、26年、27年の工事で28年開設という話があったが、いろいろな課題もあるので、これで本当に最短かなと私は思っている。

新しいセンターができたときに、今こゆるぎ荘を使っている腰越の人たちは、今度どうするのかというのが非常に大きな話題になっている。だから、交通網の整備もしていかなければならない。腰越の地区からそこまでコミュニティーバスを出すのか、それはいくらで行けるのか。あそこまでバスの回数があまりないから、時間的に間に合うのかもとも含めると、バス会社とも相談しなければいけないし、そんなことも含めた総合的なことも考えていかないといけないと思う。

それと、工事用車両が相当頻繁に通ることになると思うので、今のうちから住民にしっかりした説明をしていく必要があると思う。そこをしっかりと固めて、それから工事に掛かるというようなことを、是非やってもらいたい。やはり、近所からいろいろ苦情がくると工事も伸びてしまうので、計画を早めに出してもらい「こうやるんだけど、こうしたい」ということを、しっかりと市のほうで把握をしていただきたいと思います。

— 第3部 今年度のテーマ —

<腰越地区町内自治会連合会 石井会長>

本日、私ども腰越地区の課題としてあげた3つテーマのうち、1つ目の『従来の懸案事項の進捗状況』については、第2部で質疑応答を十分させていただいたので終りとし、2つ目のテーマから入らせていただきたい。

テーマ2：『ごみ有料化及び焼却施設の現状について』

<松尾市長>

平成23年6月に策定をした、第二次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画のごみ処理基本計画の中で、家庭ごみの有料化と戸別収集の実施ということを位置づけさせていただいた。

家庭系ごみの有料化については、平成17年5月に、廃棄物に関する国の指針が改正され、経済的インセンティブを活用した一般廃棄物の発生抑制と、排出量に応じた負担の公平性を図るための有料化を推進すべき、という記載が追加された。このような流れで、国レベルで有料化が推進されるようになり、現在全国で6割以上の市町村で有料化を実施しているところである。

有料化の実施方法については、平成23年10月に鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会に諮問をし、平成24年12月に答申に向けた審議をいただいているところである。具体的な中身については、決められた袋を購入してごみを排出してもらい「指定袋方式」ということで、金額は1リットル当たり2円とすべきではないかというご意見を、この審議会の中でいただいているところだが、これは先行して実施している藤沢市など、多くの自治体が取っている方式と同様になる。

審議会からの答申が正式にあった後に本市の方針を決定し、市民の方々への説明会で周知を十分に行い、そのうえで、条例を改正して平成26年の4月からこの有料化を実施したいと現在のところ考えている。

次に焼却施設の現状についてだが、名越クリーンセンター及び今泉クリーンセンターの2施設は、共に稼動から30年を超えて老朽化をしており、また、名越・今泉それぞれの地

域の方々には、長年ご負担をお願いしているということもある。

今後、今泉クリーンセンターの稼働は、平成26年度いっぱいまで終了したいと考えているが、これは地元ともあらためて覚書を結んだところである。そして、名越クリーンセンター一炉で、鎌倉のごみ焼却を当面進めていきたいと考えているが、老朽化している名越クリーンセンターなので、安定的な施設の稼働を確保するため、平成24年から26年度にかけて、延命化に必要な改良工事の実施を予定している。

この改良工事を行うことで、名越クリーンセンターがさらに10年以上稼働できることになるが、その後の新たな焼却施設というのが当然必要になってくる。この新焼却施設の建設については、逗子市とのごみ処理広域化の枠組みの中で、引き続き検討を進めており、今年度はその一歩として、新焼却施設の基本構想の検討に現在着手をしたところである。

また、この延命化工事をしている間は、どうしても近隣他市にお金を払って、ごみの焼却をお願いしなければならなくなる。だいたいトン当たり30,000円ぐらいの金額になるが、これがかなりの金額になる。ごみが減れば減るだけ委託金額も減るので、是非ともしっかりとした分別の徹底をしていただき、ごみの減量にご協力を賜ればと思っている。

その他詳しい内容については、お手元に配布している資料「ごみ処理基本計画アクションプログラム」等をご参考にしていただきたい。

また、家庭用生ごみ処理機についてだが、今月から非電動型生ごみ処理機を市役所の窓口で、9割助成分を差し引いた1割の価格で購入ができるという制度を始めたので、是非ご活用いただきたい。

それから、「鎌倉のごみ減量を進める会」という、市民の方々が主体となってごみの減量を進めていただいている活動もある。これまで、事業系のごみについては分別がなかなか進んでいないという実情があったが、この会では、市民の皆さんが一緒になって、各事業所やお店に分別や減量をお願いに行くという活動もしていただいている。

そうしたことを取り組みながら、鎌倉市の安定的なごみ処理に向けて取り組みを進めていきたいと思うので、ご理解をいただきたい。

<七里ガ浜町内会 伊澤氏>

先日、私どもの町内会に市から、今の有料化と、もう一つ腰越ブロックでは私どもの七里ガ浜町内会と二丁目自治会を対象に、戸別収集のモデル地区を設定してやってみるということで説明に来た。

確かにごみの問題は非常に切実で、十分理解はしているつもりだが、戸別収集で一番私共の会員が危惧したのは、例えば生ごみの出し方である。カラスとか猫とかそういう問題がでてきて、その場合はネットをかぶせるとか、容器で出すので自分たちで買ってくださいと言われたが、モデルケースという形で実施するのであれば、当然その後どうなるかわからないという中で、それを自分たちでそろえてくれというのはちょっと筋が違うのではないかと、かなり厳しい意見があった。

それに対して市の方は、持ち帰って検討するということであつたが、そういう意見が市

長さんに伝わっているのかどうかお聞きしたいというのが一つ。

それともう一つ、戸別収集に当たっての諸問題だが、例えば私共の場合は、山のところや車が入れないところ、狭い路地、私有地にも家が建っている。その場合にごみをどこに出したらいいのかという問題が出てくるので、それぞれ個人個人に市から個別指導をしていただきたい。

10月から実施と聞いているので、そういうことをしっかり私共の会員の方達に説明いただかないと、なかなかハイそうですかというわけにはいかないと思う。

<松尾市長>

説明会の結果として、そのようなご意見があったことは担当から報告を受けている。

確かにこちらで決めたエリアなので、皆様方に本当にご理解をいただいてありがたいと思っているが、今の課題については十分検討させていただき、この10月にはなるべく皆様方に負担がかからないような形で、試行をスタートさせていただきたい。

<下町町内会 杉山会長>

今はステーションのごみを、市の職員が運転手を含めて3人ぐらいで回収しているが、今度は、各家の前にごみを置くとなると、相当な人数を要するのではないかと思う。

単純な考え方だが、お金がないと言っている状況で、人件費や費用対効果など、現行と比べて金銭的な部分でどういう変化があるのか。今より費用がかかるのであれば、もう一度再考していただかなければいけない部分がでてくるのではないか。

<石井環境部長>

今お話があったように、戸別収集の一番のデメリットはやはり費用がかかるということである。今までクリーンステーションで収集をしていたものを、各お宅のほうに回るので、それはどうしてもお金がかかってしまう。

ざっくりとした試算だが、今クリーンステーションでの費用に比べると、2億円ぐらいはどうしてもプラスになる可能性があるだろうということである。基本的には3人体制の中で少し班を分けたり、狭いところは軽自動車で入ったりということを考えているので、人と車が増えることにより、金額的にも増える可能性はあると思う。

まだ実際にモデル収集をやっていないので、今、藤沢市にも行って、どうすれば効率的に収集できるのか、実際に職員が乗って試したりもしている。10月からモデル収集をしていく中で、いかに効率的にうまくできるか、総体的な費用対効果も含めて考えていく。

<下町町内会 杉山会長>

その2億ぐらいの増額があったにせよ、それ以上に戸別収集をやるのが、市にとって住民にとって非常にメリットがあるのだということ、10月から試行をして結論が出た場合には、何らかの形でまた周知を図っていただきたい。

お金がないのに2億も支出して、それでいいのかという話も出てくると思うので、行政側としては大変だと思うが、その点も含めてよろしくお願ひしたい。

＜西鎌倉地区社会福祉協議会 齊藤会長＞

戸別収集をやるということは、車であればちょっと行けばすぐ停まり、停まりとなる。今はステーション方式で皆さん身についているから、その方が早く回収できるだろう。お金さえあれば業者はやるだろうが、それが今言ったようにお金が非常に高くなるということで、皆さんどう思うかなということがある。

それと、生ごみ処理機については、意外と知られていない。例えば鎌倉ケーブルテレビなどでもっとPRしてはどうか。知らない人は面倒くさいのではないかというのが頭にあるから、経済的にしかも簡単でうまくいくのならそれを紹介して、全体的に焼却するごみの量を減らすというように、両面でいかないとダメではないかなという気がする。

＜新鎌倉山自治会 川岸氏＞

家の前にごみを置いても、すぐ来てくれるわけではない。外出することもあるから、それで帰ってきたら散らかっていたということが目に浮かぶようだ。

戸別収集をする一番のメリットは、お金を払っているからなるべくごみを少なく出そうとみんなが思うと、そう考えているのか。でも、みんな少なく出すように頑張っている。出し放題出している人はそうはいない。生ごみ処理機は、節電節電と言われている時に、あれをずっと動かしているのも抵抗があるので、最近はお休みをしているが、こうしてみんないろいろ工夫をしている中で、戸別収集に関しては皆さんどう思っているのか。

玄関に出して、また昔のようにごみ箱を作るとなると、その費用もかかってくる。それでもなおかつメリットがあるという、説得力のある話を聞かせていただきたい。

＜鎌倉白山坂自治会 粕淵氏＞

この戸別収集・有料化というのは、他府県でやっているわけだから、総合的な経済効果も出ているはず。そこを言っていたかからないから皆納得をしない。面倒なことをやるのだから、やった結果こういう経済効果が出ますと、それで鎌倉市もこうなりますよということをお答えていただかないとわからない。

それともう一つ、先行してモデル収集をやるということだが、この計画はもう27年度にやるってことが決まっています、議会も通ったのだから、途中でやめるということはないのだから。実際先行してやってみて、いろいろ問題があるからやめますということにはならないという理解でよいか。

＜松尾市長＞

もちろんやるということであるが、やはりこうした貴重なご意見をいただきながら、またモデルケースもやらせていただく中で、課題があればそうしたことも解決していく。

＜鎌倉白山坂自治会 粕淵氏＞

課題は当然出るからそれは解決するけれども、実際にごみの減量化はしないとイケないから、やるという前提のもとで進めているのだろう。ごみを家の前に出せば、当然カラスもつく。だから当然、各家庭でそういったことを防衛する投資はしないとイケない。それを市にお願いしますというのは他人事だと思う。

自分達でどういう対策をとるかというのはわかっているのだから、各家庭でそれはきちんとやるしかないと思う。そういうことを前提で話していただかないと、皆の意見を全部満足させようとしたら、それは難しいと思う。

＜土橋町内会 松本会長＞

戸別回収というが、我々子供の頃は戸別みたいなものだった。だから川岸さんが言ったように、戸別にするとごみのバケツとかは留守の間に散らかってしまう。

だからといって、試験的にやってダメだったからまた戻すとなった時に、クリーンステーションを掃除してくれている近所の人や町内会が、それはもうやらないよとなると困る。

だから私は、現状が一番いいのではないかと思う。皆さんそうだと思いますか。個人的な意見だが、戸別収集は絶対ダメだと思う。

＜神戸町内会 浅井会長＞

今のステーションでも、ひとつの場所で回収するのに3分から5分ぐらいかかっている。これが戸別収集になって3倍4倍走って回収していくと、今度は車の騒音などが懸念されるし、また、回収日に収集に来なかったとなると、その苦情はやはり会長や責任者に来る。

高齢化が進んできて分別ができない人もいるし、曜日を間違えて出す人もいるが、今はそれはステーションでお互いに町内で助け合って管理している。戸別収集にした時に、回収に行かなかった家があったりすると、町内会にはそういう負荷が非常に重くのしかかってくるのが懸念される面なので、そのあたりも頭に入れて進めていただきたい。

＜松尾市長＞

確かに皆さんに手間をかけさせるだけのメリットはあるのかという問題はある。現状のままごみ処理が安定的に続くのであれば、それも選択肢の一つだと思っているが、今39,000トンの燃やすごみが年間出ているところ、名越の一炉になった時には30,000トンしか燃やすことができなくなるので、現状のままだと年間9,000トンのごみが溢れることになる。

従前は、その分の生ごみだけを処理する物を作って、そこで生ごみを処理するという計画があったが、それはまだ全国的にも安定的に稼働できていないので、今は手を出すべきではないということで方針を転換させていただいた。

そういう中で、皆様方には何度も何度もごみの発生抑制をお願いしてきている。皆さんはきちんとできていると思うが、実際に全市で見ると、まだ25%の余計なものが燃やすご

みの中に入っているのです、これをやはり減らしていかなければならない。

そのための有効な手段というのが戸別収集・有料化であると、今我々としては考えている。実際に藤沢市の場合は、余計なものが18%入っていたのが、戸別収集・有料化によって9%にまで圧縮されたという例もあるので、それらも踏まえての計画としてご理解をいただきたい。

もちろん、これからモデルケースをやる中で、鎌倉に合った形というのも当然あると思うが、これまでの皆様方のライフスタイルや、地域の方々のステーションにおける努力の実績というのも、もちろん考えなければいけないと思っているので、何が何でもというよりも、きちんと皆様方とこうして対話をさせていただきながら進めていきたいと思っているので、ご理解いただきたい。

テーマ3：『津波対策、防災無線等の防災対策について』

＜松尾市長＞

津波対策については、県による新たな浸水予測を踏まえて、昨年度から各地域で自主的に訓練等を行っていただいているところである。また、電柱や公共施設等への海拔表示も進めており、避難の目安というものをよりわかりやすく取り組んでいる。

また、今後は、津波ハザードマップ改定はもちろんのこと、とにかく逃げていただかなければならないということで、新たな避難経路の確保ということにも取り組んでいきたい。

防災行政用無線については、補完対策として新たに、個別受信機の受信状況調査を実施させていただいた。お手元の資料にその調査結果一覧を配布しているが、大変残念なことに、この腰越地域は受信できたのが27.7%と大変低い数字となった。由比ガ浜の方で発信をしているので、山の内側になる鎌倉地域の方はかなり受信できて有効な手段だということとは分ったが、こちらの山を越えた地域については、補完対策としてはなかなか難しいという結果が出ている。

こうした個別受信機に適さない場所については、他の補完対策、メール配信や消防テレホンサービス、鎌倉FMの放送、鎌倉ケーブルテレビへのテロップ挿入等による周知を進めると共に、自主防災組織による近所への声掛けなど、地域と行政が一体となった取り組みを充実させていきたいと思っている。

＜腰越中学校PTA 新倉会長＞

去年、腰越地区は町内会ごとに別々に避難訓練やったが、かなりの効果がでたと自負している。今日せつかく地域懇談会で腰越・西鎌倉・七里ガ浜・手広の各学校が集まっているので、今度は学校合同で訓練ができないかなというのを提案してもらいたい。さらに、幼稚園・保育園も混ぜて子供達の避難訓練も一斉にできないかと。

やはり小学生になると避難訓練の意識が低いので、他の学校もやっているとなれば、意

識を高める効果になると思う。小学校に関しては、一斉下校訓練も兼ねてやってもらえばさらに効果が上がると思うので、そのことも考えてもらいたい。

あともう一点、少し前のニュースで、朝の通学時間帯に暴走した車が児童の列に突っ込むという痛ましい事件が何回かあったが、腰越地区のお巡りさんに朝オートバイでパトロールをしてもらえれば、運転者の気持ちもちょっと違うだろうし、子供達もお巡りさんが通っていれば、安全に気を付けようという意識が高まると思うので、そのあたりもお願いしたいと思う。

<嶋村防災安全部長>

先程の市長の防災ラジオの話に若干補足をさせていただくが、腰越地域は残念ながら27%という受信率である。確かに山を挟んで由比ガ浜から発信しているから、やはり届かないのかなと思う。防災無線はいつも点検しているので受信しているのは確実なのだが、ラジオは残念ながらという部分がある。

ただ、今回の調査ではメリットもあった。一つは、防災無線は聞こえるが、夜間や雨が降っていて雨戸がしまっていたら全然聞こえないという方から、防災ラジオなら部屋の中にいてわざわざ雨戸をあけなくても聞こえた、という意見をいただいている。それから主に高齢者の方だが、耳が遠い方には非常によく聞こえて助かったという意見もあった。

それとマンションの方は、1階だと聞こえたが上では聞こえなかったという人が、これを入れることによって聞くことができるようになった。そういうメリットがあったということは一点、報告をさせていただく。

それから、一斉訓練をという話があったが、これは大変いいことだと思う。今は学校別に授業の一環としての訓練をやっているのだから、その部分については教育委員会の方に私の方からお話をさせていただきたい。

それともう一つ、保育園・幼稚園も一緒にという話だが、実はこれが一番大事である。災害弱者の施設には、幼稚園・保育園だけではなく、高齢者・障害者の施設もあるが、これらの施設の中には単独で避難訓練をやっているところもある。

ただ、やはり合同でということで、昨年私も参加した腰越の訓練では、できれば地域のみなさんが訓練をする時に、一緒に参加してくださいということを、市の方から呼びかけている。実際、他の地区ではやったところもあり、それによって、それぞれが助け合って逃げていただくことができるというメリットもあるので、引き続き施設には、是非、一緒に参加してほしいということをお願いしていきたい。

次に通学路の安全対策だが、市長からも指示があって、今、市内の通学路の点検を教育委員会と一緒にやっている。歩道やガードレールが必要だという要望が出ているが、ご存じのとおり、道路が狭くて実施不可能な箇所が、県道、市道も含めてあるので、ガードレールができないならカラー舗装をするなど、できることからやっていく。

さらに、通学路については、多分、地域の方が把握されていると思うが、通学時間にここが一番危ない場所だというようなところを中心に、できれば学校区単位ごとに、防犯プ

ラス交通安全ということ踏まえて立ち番をしていただくとよい。

当然、私共の方からも、警察の地域課の方に、できれば駐在の方々に、毎日ではなくてもそういう場所を回ってほしいということは伝えたい。

<浜上山自治会 伊藤会長>

浜上山自治会は、昨年防災ラジオを10台借りて10人の家庭プラスアルファでやったところ、1台も聞こえなかった。

また、防災無線放送はテレジア病院の所に立っているが、反対方向は全く聞こえない。テレジアのところから浜上山は下がっているのに、音が上の方に行ってしまうと下に下がってこない。それに、浜上山は風が強いので、音が全部流されてしまう。携帯メールと言うが、お年寄りが多いので携帯は持ってない。

そういったことがあるので、もし住民からの要望があれば、防災の放送施設を整備する予算は組まれているのかどうかを知りたい。

<嶋村防災安全部長>

今、お話があった防災ラジオについては、玉縄地域ではほとんど聞こえなかった。由比ガ浜から一番遠いということもあるが、聞こえない地域もある。

防災無線については、聞こえない場合は、例えばスピーカーの方角を変えるとか、こちらの方面だけ、少し音量を強くするとかの微調整はできる形になっている。自然現象で風が強い時などは難しいが、通常の時に聞こえない、あるいは聞こえるが何を喋っているかわからないという場合は、総合防災課の方に電話をいただければ、現場を回っている職員が業者と調整をする。

ただ、やはりどうしても聞こえないエリアというのがある。今の防災無線は、技術的に半径250mの範囲が聞こえる形になっているが、山坂があると、どうしても途切れる部分がある。浜上山は多分、新たにどこかに建てた場合に、他の所の防災無線とバッティングする地域になっていると思う。そうすると不協和音みたいな音になってしまうので、なかなか設置が難しい部分がある。

もし地域で、だいたいこのエリアが聞こえないというのが分かった場合、総合防災課の方に相談いただければ、技術的にそこに無線を建てるのが可能かどうかを調べることはできる。その結果難しいということになれば、やはり補完的なもので対応するしかない。

また、お年寄りが携帯を持ってないというご意見もいただいている。重要な伝達、特にサイレンが鳴る津波などの場合は、地域の自主防災組織の方々も含めて、隣近所で耳が遠い方などに声掛けをするなど、是非努力をしていただきたい。市としても、「公」としてできる努力はさせていただく。

<七里ガ浜町内会 伊澤氏>

私共の町内会も、年2回は必ず防災訓練をしており、去年から今年にかけては津波対策

と言うことで、どういう経路で逃げたらいいかという訓練を積んでいる。当然、地域全体でやらなければいけないので、学校やお店などにも呼びかけて、これから取り組んでいく必要があると考えている。

それで、私共の地域には行合川という川が流れているが、この川は非常に狭く谷戸にもなっているので、もし大きな津波が来るとおそらくこの辺り、田辺地域というのが、水没して津波にさらわれてしまう、もっとも危険が伴うところである。

今回134号線の改修工事があるという話の中で、その河口に川を堰き止める扉のようなものを設置できないかということ、この間私共の町内会と東の自治会さん、二丁目さんと、嘆願書みたいなものを出させてもらっている。鎌倉市を通じて県の方も含めて、是非このところを考慮していただき、実現に向けて検討していただきたい。

<嶋村防災安全部長>

今の行合川の堰の話は、私と都市整備部長が話を聞いている。

皆さん「広報かまくら」で津波の新しい浸水予想図をご覧になったと思うが、あの県の想定では、行合川を遡上する浸水予想にはなっていない。ただ、話を伺うとおり、今回県が示した1000年に一度くるだろうという津波の場合、やはり小さな河川では10mぐらいの高さになる。当然134号線で一部抑えられるが、当然、川を遡上してくると思う。

海浜部分の管理は、神奈川県藤沢土木事務所が所管しているが、河川管理は市の都市整備部が中心となって技術的なことをやっており、県とは連携して取り組んでいこうという確認を行っている。今後、話がある程度進んだ中で、何らかの形で、所管の部からお話をさせていただけると思っている。

<七里ガ浜小学校スポーツ振興会 遠藤会長>

地震が起きると、この蛍光灯が全部消えて、このテーブルがドーンと上がって、みんな這いずることになる。地震が起きるといのはそういうことだ。

ここの海拔は5.5mだから、例えば東海沖、南海沖、さらに東南海沖で地震が起きると、フィリピン海プレートが跳ねてもものすごい津波が来る。10mの津波が来たら、この行政センターも2階ぐらいまで水が来る。ということはモノレールの西鎌倉駅にも水が来るということだ。東海沖地震が起きると津波は時速500キロで来る。ここまで400キロあるから、高さ10mの津波が約50分でここに来る。その時に10m以上の高台に逃げるのが大事であるが、ここから10m以上の高台がどこなのか、皆さんわかっているだろうか。

鎌倉市は、この腰越の5ヶ町、七里ガ浜、八幡様までの滑川沿い、みんな水浸しになってしまう。それを想定して高台がどこなのか、どうやって逃げるのかということ、ハザードマップをベースにしてきちんと把握しておく必要がある。

宮城県へボランティアで行ったが、10m以上の所にある家は地震でも倒れずに平然としているが、海岸から低い5mのところに残っているのは、延々と基礎のコンクリートだけ。腰越のこの5ヶ町をそういう光景をしてはいけないから、そのために何をすべきか、地

域の人も一生懸命やるが、市長を筆頭にもっとまじめに考えてほしい。

やはり地震は絶対に起きる。一番心配なのは東海沖で、そこから南海、さらに東南海。そしてこの行合川、滑川、そして神戸川の鎌倉市の3つの川には、確実に津波が遡上する。このことをきちんと捉えたうえで、県の防災マップが出たら、防災マップ以上のことを考えていかないと。

<松尾市長>

例えば津波避難タワーを作るとか高い建物をつくるとか、そういう選択肢もあるとは思いますが、今現在そうした特別な物は計画していない。ただ、それは決して何もしないということではなく、地震はいつ起こるか分からないから皆さんが常に危機感を持ち、どこにいてもしっかりと高台に逃げていくという意識を持って、訓練に取り組んで行くことが非常に大事だと思っている。こうした訓練を積み重ねる中で、行政もしっかりとその取り組みをバックアップしていきたい。

テーマ外

<腰越地区町内自治会連合会 石井会長>

本日子定していたテーマは、これをもって終了させていただくが、若干時間があるので、その他何かご意見、ご質問等があればご発言いただきたい。

<腰越地区社会福祉協議会 小川会長>

鎌倉市内どこもそうなのかもしれないが、自治会・町内会の加入率が低く、20%に近いぐらい未加入の世帯があると思うので、何かいい方法はないものか。前回もこの話をしたと思うが、防災や福祉の問題もあるので、市としてどう捉えていて、何か方策を考えているのかお尋ねしたい。

<松尾市長>

これは大変難しい問題だと捉えている。加入率を上げていくことが、その地域の力をさらに向上させていくということにも繋がると思っている。我々としても、こうした取り組みをしても、結局それが伝わらなければ本当に何の意味もないし、ましてや津波が来たときはみんなで逃げようという話をここでしていても、それが皆に伝わらずに逃げ遅れる人が出るということは避けたいと思っている。

そういうことを含めて、できる限り加入率を上げていくように、「広報かまくら」等も使いながら行政としても促進をしていき、また地域の皆様のお力もお借りしながら、協力して取り組みを進めたいと思う。

<西鎌倉地区社会福祉協議会 齊藤会長>

今西鎌倉地区では、津、腰越、手広の番地が昔のままである。普通だったら何丁目何番何号となるが、4桁の番地であるため、どこからどこがどうなのかというのが非常にわかりにくい。これを改革してわかりやすく表示してもらいたいが、これは住民の問題なのかそれとも行政の問題なのか。

<松尾市長>

これは行政として進めていきたいと思っているが、ご指摘のあった腰越、津の地域、私もそこに住んでいるが、これは何年か前に整理をすべきかどうかというアンケートをとったところ、やはり一定以上の賛成は得られなかったという結果がある。今後、地域の方々がまとまれば行政としてもあらためて検討をしていきたい。

<西鎌倉地区社会福祉協議会 齊藤会長>

逆に、こういうことをすると、防災とか色々な行政上の問題がある。ただ、そういう方向性というのはいいのではないか

<松尾市長>

これは、100%賛成が得られなければやらないという話ではない。

<西鎌倉地区社会福祉協議会 齊藤会長>

住民の民意や意見を尊重するのは結構だが、これでは責任を持ってないという立場で、行政としてもっと強く出してもいいという気がする。これではいつまでたっても決まらない。

<鎌倉市老人クラブ連合会腰越地区 佐々木氏>

西鎌倉山は、同じ自治会で腰越、津、手広、鎌倉山三丁目と住所が4つある。それで数年前に町名を統一しようという話があったが、皆町名に愛着があって全然まとまらなかった。皆それぞれ歴史を持っていて、その土地に愛着を持っているから、津に住んでいる人は津何丁目ならいいと言うが、手広の人は手広何丁目ならいいというように、同じ町内会で意思統一ができない。

だからもし行政でやるのであれば、旧町名と歴史も大事にしたうえで新町名をやるという方式でないと住民は一致しない。380所帯が4つに分かれているから、4つの住民が喧嘩になってしまう。これをうまくソフトランディングするのは、本当に大変なことなので、そういうことを踏まえて行政のほうで検討してほしい。